

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	図書購入・整理提供事業	会計	一般会計	事業No.	810	施策順No.	28-012
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-5-10-2		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	図書館		
施策	28 学習交流活動の推進			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない		
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)		19年度	20年度	21年度	22年度		23年度	
		飯田市の人口(人) (H21.10.1)		107259	106630	105691	105036	105036		
意図	市民の求めるあらゆる資料や情報を提供する。									
対象をどう変えるか	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)		19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		購入冊数(中央・県・上郷・16分館)		33549	31532	25497	26000	29128	24000	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)もあり、目標値を大幅に上回った。									

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	職員が利用者を知り、資料を知り、その上で市民の潜在的要望を引き出す選書を行う。「図書館の自由に関する宣言」に基づき、市民の図書館利用の意欲と関心を引き出す選書を心がける。また、市民のリクエストは、蔵書構成に対する市民参加であるという認識の基に尊重し、収集に心がける。また、蔵書の更新や廃棄についても同様に基準に従って行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 選書・購入 (1) 常時全職員で購入に適した本の情報収集 (2) 毎週1回の選書会議で購入決定し発注 (3) 市民のリクエストは、市民の選書として極力優先する (4) 購入本が入荷次第速やかに検収し、整理し、登録し、利用者へ供する (5) 雑誌・新聞等逐次刊行物を購入・受入れ・提供し、保存年限に準じて保存管理する 2 開架資料の書庫上げや書庫資料の除籍選書と処理。除籍本は市民に無料で還元	1 購入合計冊数 (1) 中央 (2) 県 (3) 上郷 (4) 16分館 2 (1) 除籍数(全館) (2) 市民還元冊数(常時)	1 29,128冊 (1) 11,944冊 (2) 3,238冊 (3) 5,761冊 (4) 8,185冊 2 (1) 15,471冊 (2) 9,515冊
23年度実施計画	1 選書・購入 (1) 常時全職員で購入に適した本の情報収集 (2) 毎週1回の選書会議で購入決定し発注 (3) 市民のリクエストは、市民の選書として極力優先する (4) 購入本が入荷次第速やかに検収し、整理し、登録し、利用者へ供する (5) 雑誌・新聞等逐次刊行物を購入・受入れ・提供し、保存年限に準じて保存管理する 2 開架資料の書庫上げや書庫資料の除籍選書と処理。除籍本は市民に無料で還元	1 購入合計冊数 2 (1) 除籍数(全館) (2) 市民還元冊数(常時)	1 23,500冊 2 (1) 10,000冊 (2) 9,500冊

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(国) 住民に光をそそぐ交付金事業4,000千円(10/10) (そ) 寄附金
		県支出金	4,000	4,000			
		起債					
		その他	10	10			
		一般財源	39,790	39,780	39,800		
		計(A)	43,800	43,790	39,800		
		正規職員所要時間		5,400			
		臨時職員等所要時間					
		人件費計(B)		19,310			
		トータルコスト A+B		63,100			

4 事業に対する市民や議会の意見

図書購入費を減らさないと欲しいと市民の声が寄せられている。
-------------------------------

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	学びの機会が得られる。	施策の成果指標又はムツス指標	学習活動を行っている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	様々な分野の図書の収集・保存・提供、暮らしや仕事に役立つ新しい情報の提供により市民の学びの機会を保障してきた。地域関連資料を積極的に収集・提供することにより、ふるさと意識醸成に貢献した。		
	後期に向けた課題	上記の着実な推進		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	市民の図書に対するニーズの把握に努め、要求と合致する資料購入に努めた。書庫の増設により収容能力が向上し、より多くの資料を市民に提供できるようになった。		
	後期に向けた課題	常に一定の資料購入費を保持し、最新の情報を手渡していくことが必要。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	選書会議による分担収集等を行い資料の有効活用を図った。相互貸借や複写取り寄せ、インターネット情報利用など最少の費用でのサービスに取り組んでいる。		
	後期に向けた課題	特になし		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	図書館法17条で無料の原則がうたわれている。		
	後期に向けた課題	特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①市民がリクエストという形で選書に参加。 ②誰もが気軽にリクエストできるよう周知に努め、リクエストされた資料は優先的に購入してきた。		
	後期に向けた課題	特になし		
全体を通じて	4年間の振り返り	あらゆる年齢層が学ぶ機会を得る機関として、様々な分野の資料を収集・保存・提供してきた。利用する市民のニーズに合致した資料収集と、除籍等による新鮮な書架作りに努めてきたことにより、資料の利用が広がってきた。		
	後期に向けた課題	長期的視野にたった蔵書構成に努め適切な蔵書の管理を行う。 多様なレファレンスに対応できる資料収集、レファレンスツールの整備を行う。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------